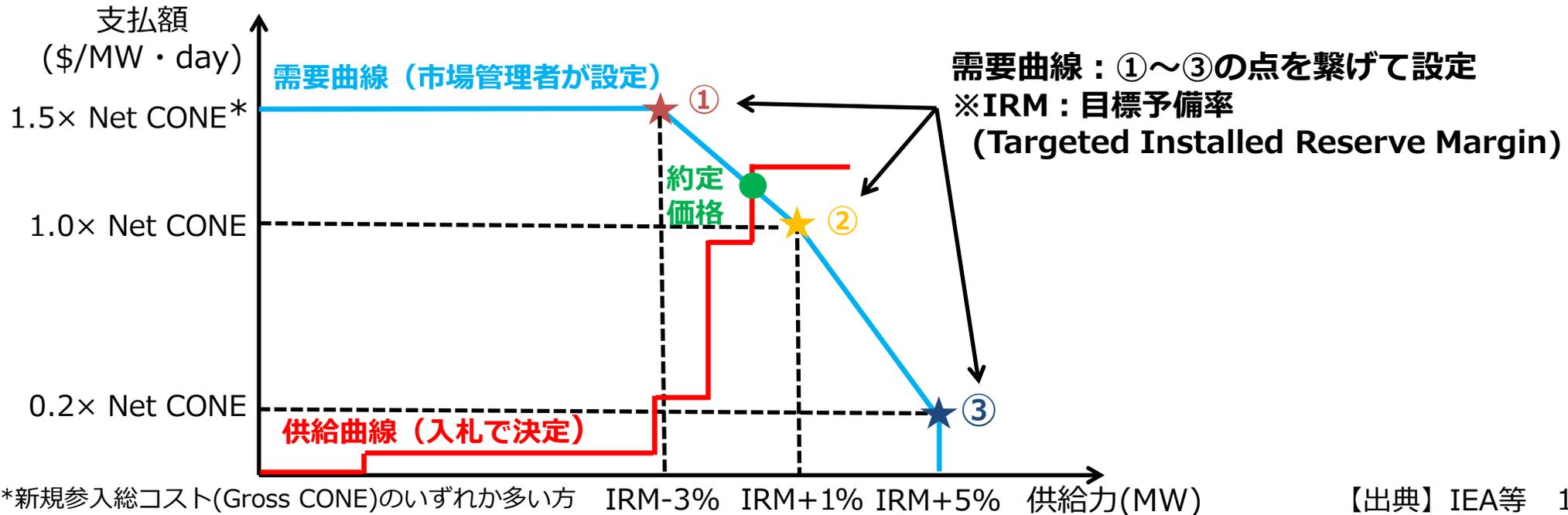


集中型容量市場における需要曲線等の設定方法（米国PJMの場合）

- 米PJMをはじめとする諸外国の集中型の容量市場においては、まず新規の電源投資を促すために必要なkW価値への支払額（CONE：Cost of New Entry）を設定する。
- その後、算出されたCONEも踏まえ、供給力の変化に対して、kW価値の価格変動が緩やかになるような右肩下りの需要曲線（Downward Sloping Demand Curve）をISO等が設定。
- 例えば、米PJMのCONEは、仮想のガス火力プラントを想定し、新規参入に要する総コストから容量確保期間における卸電力市場や調整力市場からの収入を差し引いた価格をベースに決定(Net CONE)。

【米国PJMにおけるCONE及び需要曲線の設定方法】

Net CONE：卸電力市場・調整力市場からの収入を除く新規参入コスト÷(1-事故停止率)

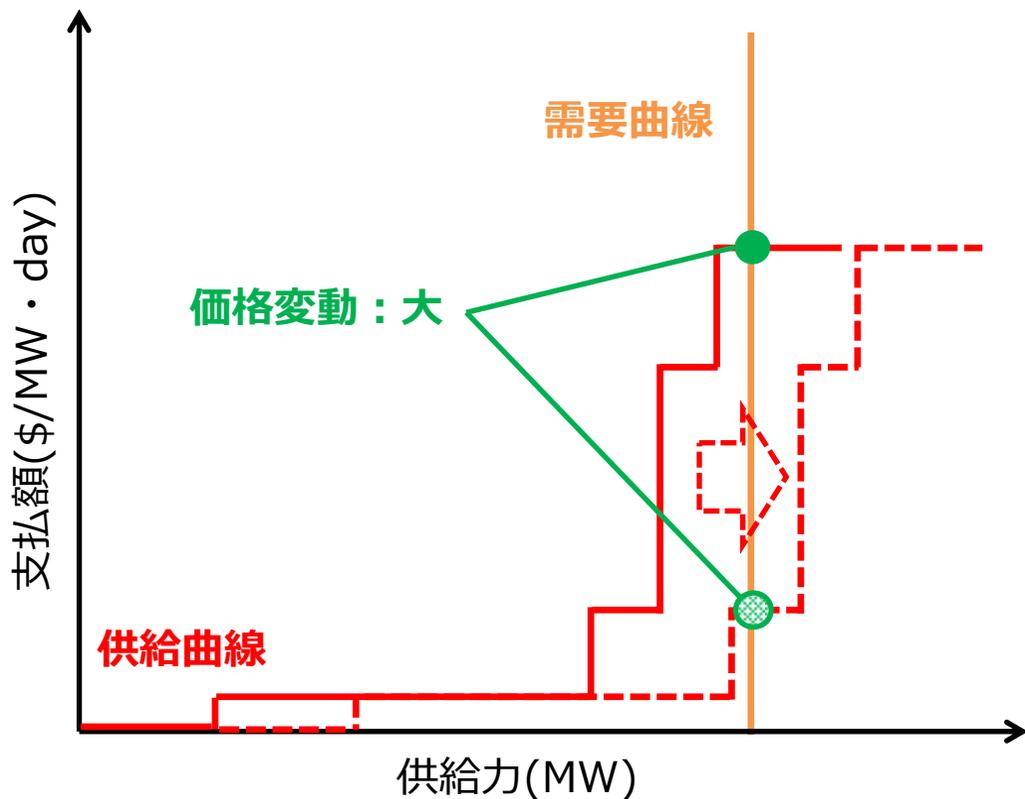


(参考) 需要曲線の設定方法の変遷

- 容量市場発足当初の需要曲線は、目標予備率を確保出来る供給力の地点で垂直に設定。
- しかしながら、供給力の変化に対するkW価値に対する支払い額の変動が大きく、適切な価格シグナルを発信出来なかったため電源等の新陳代謝を促す効果が限定的であったことから、より変動を抑えることが可能な右肩下がりの需給曲線が主流となった。

【米国PJMの場合】

過去の需要曲線（垂直）



現在の需要曲線（右肩下がり）

